

TOPICS

●第12回セーフティジャパンインストラクター競技大会

世界10カ国118名のインストラクターが トップレベルの指導力、安全運転技術を競う



総勢118名の選手が参加し安全運転の指導力、技術を競った

10月16日(木)～18日(土)の3日間、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)にて、「第12回 セーフティジャパンインストラクター競技大会」が開催された(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)。この大会は、安全運転普及の各分野で活躍するHondaの安全運転インストラクターの指導力ならびに運転技術の向上と均質化を図る場と機会の提供を通じ、世界に通用するインストラクターの育成を目的に1997年より毎年開催されている。12回目を迎える今年も、国内から86名、海外は中国、フィリピン、ハンガリー、インドネシア、マレーシア、シンガポール、スペイン、タイ、ベトナムの9カ国から32名、総勢118名が参加した。

選手は、グループA(国内交通教育センター)、グループB(Honda製作所、研究所、ホンダ学園、ホンダエンジニアリング)、グループC(ホンダモーターサイクルジ

パン、二輪販売店、ホンダ学園)、グループD(四輪販売会社)、グループE(海外連結子会社、関連会社、ディストリビューター)に分かれて、安全運転の知識、技量、スキルをはかる競技や審査に取り組んだ。

の梅澤克明選手が選手宣誓を行った。

競技は、9時20分より開始。この日、グループA～C・Eは、二輪部門「ブレーキング」「パイロンスラローム」「コーススラローム」、四輪部門「フィギア※」「ブレーキング回避」「パイロンスラローム」、「筆記レポート」に取り組んだ。また、グループDについては、販売会社での安全活動により積極的に活かせるように今年から競技内容が大きく変更され、「安全運転知識審査」「指導力審査」に取り組んだ(コラム参照)。

夜には、懇親会が開かれ、選手たちが親睦を深めた。「筆記レポート」



「筆記レポート」

※フィギア=スムーズな操作・走行かつ正確な車両誘導技術を競う種目。縦7m×横7mのボックス内に設けられた3箇所の枠内に方向転換をしながら指定された前輪または後輪を入れ、タイムを競う

安全運転普及活動の輪をさらに広げる努力を

大会3日目(18日)は、午前中に、二輪部門「一本橋」「トライアル」、四輪部門「コーススラローム」「総合課題走行」が行われ、安全運転の技術を競った。

午後1時30分からは、表彰式および閉会式が行われた。大会会長の曾田浩・本田技研工業(株)取締役 安全運転普及本部長が「これからもより豊かなモビリティ社会の実現に向けて安全運転普及活動の輪をさらに広げる努力を続けていきたい」と思いを述べた。



皆さんの一層のご協力をお願いします」と挨拶し、3日間の大会を締めくくった。

閉会式で挨拶を行う曾田浩・本田技研工業(株)取締役 安全運転普及本部長

日頃の安全運転普及活動の質を高める大会

大会初日(16日)には、グループAの選手を対象とした「指導力審査」が行われ、7つの交通教育センターのインストラクター3名1組が、それぞれメインインストラクター・サブインストラクター・受講者役に分かれて、規定の15分間で乗降車・運転姿勢についての指導方法を競った。



グループA「指導力審査」

大会2日目(17日)からは、全てのグループの選手による競技がスタート。午前8時30分より開会式が行われた。開会式では、大会副会長の河野光彦・(株)レインボーモーターズ代表取締役社長が挨拶。「自らのフィールドで技術力を磨き、仕事の質を高めチャレンジを続けていただくことを期待します」と述べた。続いて、出場選手を代表し、昨年のグループAで1位となった交通教育センターレインボー浜名湖

グループDの競技種目

販売会社でお客様に共感される安全運転普及活動をめざして

今大会より、グループD(四輪販売会社セーフティコーディネーター部門)では、販売会社での安全活動により積極的に活かせるよう、安全についての知識、自ら安全運転指導を實踐できる技量、そして、それらをお客様にお伝えするスキルの3点に力点を置いた内容に競技が大きく変更された。

グループDの選手が取り組んだのは、3種目。1つ目は、セーフティコーディネーターとしての知識を問う「安全運転知識審査」。



「安全運転知識審査」

2つ目は、「指導力審査」。この種目では、規定の10分間でお客様に四輪の運転姿勢についてお伝えする様子を審査した。「指導力審査」で優勝したのは、Honda Cars川崎 都筑仲町台 店長・チーフセー



「指導力審査」



「総合課題走行」

フティコーディネーターの早川一弘さん。早川さんの発表では、お客様の普段の運転姿勢を確認した上で、お客様の体格に合わせた座席やハンドル、ヘッドレスト、ミラーの合わせ方を正しい運転姿勢は肩こりの解消だけではなく、事故の際の被害軽減、緊急時に危険を回避するためのハンドルやブレーキ操作がしやすく安全面でも有効であることを伝えた。

3つ目は、「総合課題走行」。この種目は、実技競技で、実際にクルマを運転して、車庫入れ、横断歩道手前での一時停止、車両感覚、車速感覚の正確さを競った。日頃お客様にお伝えすべき、乗降車の手順、安全確認、運転姿勢等を自ら正確にできるかもポイントとなった。

世界33カ国に広がるHondaの安全運転普及活動の基礎をさらに強化していくために

10月15日(水)、Hondaの海外各事業所の社長、安全運転普及活動推進責任者が参加し、「第1回Honda世界安全運転普及活動サミット」が開催された(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)。この会議は、地域本部別の安全運転普及活動の展開ビジョン構築と実践にむけた施策の強化を図るために、各国が抱える課題を共有化し世界共通に取り組む解決策を討議することを目的としている。

今回は、日本、中国、フィリピン、ハンガリー、インド、インドネシア、マレーシア、シンガポール、スペイン、タイ、ベトナムの11カ国から25名が参加した。



会議では、各国が共通認識のもとグローバルな視点で安全運転普及活動の基礎をさらに強化していくこと、それぞれの国で行われている安全運転普及活動のノウハウを相互共有し国際的な活動レベルのさらなる向上をはかっていくこと、インストラクターレベルの国際標準づくりに向けて協力していくことなどを共有化し各国がそれに向けて取り組んでいくことを確認した。



四輪部門「フィギア」



四輪部門「ブレーキング回避」



四輪部門「コーススラローム」



四輪部門「パイロンスラローム」



二輪部門「ブレーキング」



二輪部門「コーススラローム」



二輪部門「パイロンスラローム」



二輪部門「一本橋」



二輪部門「トライアル」